

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : University of Calgary

留学期間 : 平成 28 年 4 月 6 日 ~ 平成 28 年 7 月 26 日

私は所属大学の留学プログラムを利用して、カナダのアルバータ州カルガリーにあるカルガリー大学（University of Calgary）の語学プログラムにて約 4 ヶ月間英語を勉強した。留学中の滞在方法はホームステイであり、毎日英語を使いホストファミリーと会話したことが私にとって一番の英語学習方法だった。私のホストファミリーはカナダ出身のホストファザーとホストマザーの二人だった。二人とも非常に明るい性格で、いつも私に話しかけてきてくれた。学校では英語を第二言語として学ぶ留学生と話すことがほとんどであったので、ネイティブスピーカーであるホストファミリーと話す時間は非常に有意義であった。

今回の留学から得たことは大きく分けて以下の二つである。

一つ目は、留学の最大の目的だった英語力の向上である。現地の学校では月曜日から金曜日までグラマー、ライティング、スピーキングの計 5 時間の授業が毎日あり、集中して英語を学ぶ環境があった。クラスメイトの構成は 70% が中国、韓国、日本からきたアジア人で、30% がコロンビア、ペルーなどからきた南米人で構成されていた。授業内活動では少人数のグループを作り、ディスカッションなどのグループワークや、二人一組で行うプレゼンテーションが多くあり、英語を使って自分の意見を発表する機会が多く設けられていた。中でもsemester内に 5 回あったプレゼンテーションの点数は最終成績にも大きく影響するので、クラスメイト全員が真剣に取り組んでいた。二人一組（違う国籍同士）でペアを組み、約 10 分間与えられたテーマについて発表した。私は日本の大学の授業内で同様のプレゼンテーションを行った経験があったので、さほど心配せずにのぞんだが、初回のプレゼンの結果は悪く非常に落ち込んだ。自分が説明したことが相手に伝わらず、クラスメイトからは“What?” “Why?”と言われ続け、どうしたら相手にわかりやすく伝わるかを常に考えた。そしてわかりやすく端的に論理的に話すことを心がけた結果、最終プレゼンでは満点をとることができた。自分ひとりでプレゼンを行うのではなく、ペアと協力して行ったことは私にとって初めてのリアルなグローバル経験となった。

二つ目は、異文化理解力である。まず初めにカルガリーに到着して街を歩いて思ったことは、様々な国籍やバックグラウンドを持つ人が共生しているということだ。現に、私のクラスメイトの数人もカナダへの移住を考えて英語を勉強していた。異なる国籍、文化、宗教などを持つ人々が共生することは、軋轢を生じさせることが多々ある。実際にクラスワークでディスカッションしたときも最初のほうは、お互いに違いを受け入れることができずに討論が白熱し収束がつかなくなったときもあった。しかし時間が経つにつれてみなが違いを受け入れることが出来たとき、良いアイデアや考え方が生まれた。違いを知り、受け入れるということは凝り固まった考えを柔軟にしてくれる。私はカナダについてすぐの頃、ホストファミリーとカナダの多様性についての話をした。そのときにホストファザーが「カナダに住んでいる人は全員 Canadian だ」と言ったのを聞いて多

文化主義が根付いていると実感した。日本に住んでいたら感じるこのできないカナダの多様な文化を感じ、学べたことは私にとって英語を学べたこと以上の収穫であった。

私のこれから留学する人へのアドバイスは、以下の二つである。

一つ目は、留学する目的をはっきりさせることだ。もちろん「ただ海外にいったみたい」、「なんとなく行く」などの理由で留学にいても得られることや感じるものがたくさんあるが、目的をはっきりさせた方が現地での活動や、帰国後の活動に有利である。私が英語を勉強するため留学した目的は、「将来グローバルに働く為」であった。実際にグローバルに働いている方の数人と海外でお会いさせていただくことができ、将来への学びも得ることができた。このように事前に目的を持って渡航するほうが、限りある留学生生活を充実させることができる。

二つ目は、事前学習をすることである。これは英語の勉強だけでなく、日本そして各国の知識を勉強しておくということである。事前に幅広い分野の知識をまんべんなく学習することをお勧めする。私自身英語の基礎的な勉強はしっかりしてから渡航したが、幅広い分野のことは勉強していなかったため、現地で政治や経済、宗教のことを友達やホストファミリーと話しているときは、それらに関連する英語の単語も知識もほとんど知らなかったため、大変苦労した。もし勉強していれば、さらに学習の機会が増える。

最後になりましたが、今回大阪グローバル奨学金を支給して頂いたおかげで、大変有意義な留学生生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。